

## 16章 総合問題16

### 問題

#### 【1】

#### 解答

- (1) ウ (2) ⑤  
(3) 不要となる段落 b 1番目にくる段落 c 4番目にくる段落 d  
(4) b

#### 解説

##### 1) 主題をつかむ

この文章は10個の段落で成り立っている。このタイプの文章は説明文(exposition)と呼ばれる。すなわち、何かを論じるというよりは説明をする文章である。第1段落は導入部で、言い伝えによるコーヒーの起源の説明から始まって、設問(1)に関わる空欄で終わっている。

##### 2) 文章の一貫性を作り出すことにおける接続、指示、語彙的一貫性の機能を理解する

設問(1)は第1段落から第3段落のどこかに一文を挿入する問題である。正解はウである。この文章全体の主題であり、導入部分である第1段落の最後に入れるのがふさわしい。この部分で主題を持ち出すのにトランジション・マーカ(つなぎ言葉)が使われることもよくある。しかしここでは、接続詞も指示語もカギにならない。カギとなっている表現はFrom Ethiopiaである。エチオピアがコーヒー発祥の地として説明されているからだ。そのあとは、エチオピアからコーヒーが広まったこととコーヒーが与えた影響について述べた文が続くのが自然である。

##### 3) 趣旨から外れない

設問(2)は第4段落から取り除いても段落の展開に最も影響の小さい文を選ぶ問題である。正解は⑤である。この文で述べられていることは事実だが、関係のない余談であり、①の文から③の文へのつながりを遮っている。①の文は、アラブのスーフィ教の僧がコーヒーを使っていたことを「アフリカのキリスト教の修道士」が使っていたことと結びつけて述べている。③の冒頭のButは、コーヒーの日常での使用へと話題を移すためのトランジション・マーカ(つなぎ言葉)の役割をしている。④は、コーヒーを飲む習慣が、裕福な人々とそれほど特別な身分でない人々の両方に広まったことを述べている。⑥はコーヒーについて快く思わない人もいたことを述べている。あとは、歴史上の例が続いている。⑤以外の文はいずれも、この文章の一貫性を成り立たせるのに重要な役割を果たしている。

##### 4) 文章全体の一貫性を認識する

設問(3)は欠けている4つの段落を正しい順序に並べ、1番目と4番目にくる段落、そして、5つの選択肢のうち不要な段落を答える問題である。恣意的に並べられた5つの段落同士を比べ、空欄の前後の文章とのつながりも考えなければならない。一般に教えられている、first, second, thirdのような列挙を表す「ディスコース・マーカ(つなぎ言葉)」は、ここ

では手掛かりにならない。難関校の入試問題では、そのようなあからさまなヒントを期待してはいけない。

最初にくる段落は **c** である。first という語が第 1 文の初めのほうに使われているが、これは列挙を示す語ではない。first は at first という表現の一部として第 2 文にも使われている。この at first は、ヨーロッパで、コーヒーに対する当初の否定的な反応が、肯定的な反応に変わったことを示している (first にはさまざまな機能がある。列挙を示す機能はその一つにすぎない)。この段落の目的は、コーヒーが広まっていく様子と、コーヒーに抵抗する動きが失敗に終わったことを、さらに述べることである。

2 番目の段落は **e** である。ここでも、first という語が第 1 文と第 2 文の両方で使われている。そして、やはり列挙を示す役割は果たしていない。この 2 つの文は、単に、読者がコーヒーが広まっていく様子を理解できるように、歴史的事実を述べている。段落の最後では、こうしたコーヒーの浸透に対して抵抗する人たちがいたことに触れられている。(ここで使われている first は実質的に順序を示す機能を持っているが、後ろに second, third などは続いていない。)

3 番目の段落は **a** である。この段落では、前の段落の最後で触れられたコーヒーの浸透に対する抵抗について詳しく説明され、やはりその抵抗が失敗したことが記されている。

4 番目の段落は **d** である。この段落では、あらゆる職業の人々のコミュニケーションの場としてコーヒーハウスが長い間にわたって与えた、多くの影響について述べられている。そこには、実業家、文学者、政治家、哲学者などが集まっていた。この段落の始めは、コーヒーハウスが社会的な施設として繁栄したことを述べた前の段落の最後につながっている。そして、フランスの啓蒙思想家たちの名前を挙げることによって、そこで革命の思想が練られたという話題とつなげている。ヴォルテールの名前は次の段落にも出てくる。

不要となる段落は **b** である。この段落の内容は事実かもしれないが、前にも後ろにもつながる段落はない。コーヒーがイギリスに与えた急激な影響については **d** の段落で説明されているので、この段落は必要ない。

#### 5) 主題を見極める

設問 (4) は第 9 段落の趣旨として最もふさわしいものを選ぶ問題である。

**a** コーヒーハウスと革命の企てとの関係

これは第 9 段落の第 1 文に述べられていて、第 8 段落の最後の文とつなげる役割をしているが、第 9 段落の趣旨ではない。

**b** 見識ある思想家が飲んでいたコーヒーは奴隷によって生産されていたという皮肉

これが正解である。ヨーロッパとアメリカの革命に関する議論を燃え立たせたコーヒーと砂糖が、悲惨な条件の下で奴隷によって生産されていたことは皮肉である。

**c** ヴォルテールとアダムスの誠実さの欠如

この 2 人の思想家個人に対する批判は書かれていない。

**d** 見識ある思想家が奴隷についてどう感じたか

この点については述べられていない。

**全訳**

正確にいつ誰によってコーヒーが発見されたのかはわかっていないが、コーヒーは、今日

エチオピアと呼ばれている、アフリカに昔あったアビシニアとして知られている土地の発祥のようである。ある伝説によれば、カルディという名前の山羊飼いによって発見されたときされている。彼は、自分の山羊が、ある種の茂みから採れた実を食べた後、異常なくらい活発になるのに気づいた。これを興味深く思った彼は、自分でもその実を食べてみて、それが活力をくれることに気づいた。この活力を与える果実の知らせは瞬く間に広まり、やがてコーヒーはエチオピア文化に不可欠な一部となった。ウ コーヒーは、エチオピアから中東、ヨーロッパを経て、世界の各地へと広まった。そしてその広まった所ではどこでも、コーヒーは経済的に、社会的に、政治的に影響を及ぼした。

エチオピアの修道士は、遠く離れた修道院に運べるよう実を乾燥させた。それから、それを水に浸して柔らかくし、その実を食べ、長時間に渡る祈祷の間起きている助けとなるよう実を浸している水を飲む。こうして、コーヒーは、彼らの宗教活動の一部となった。

コーヒーの実は、貿易業者もしくは奴隷として捕らえられたアフリカの部族民のいずれかによって、エチオピアからアラビア半島に運ばれた。コーヒーの実は、おそらく6世紀に、今日のイエメンの国で最初に栽培された。イエメンの港町モカは、当時最も賑わっていた世界貿易の中心地の1つであった。そこからコーヒーはトルコへ向かい、そこで初めてコーヒー豆は火にかけられて焙煎された。焙煎された豆は砕かれ、それからお湯で茹でられ、今日私たちが楽しんでいる飲料の基礎が築かれた。

アフリカにいるキリスト教の修道士のように、アラブのスーフィ教の修道士は、コーヒーは深夜の祈祷や瞑想をするために起きている助けとなることに気づいた。だが、コーヒーは、最初は薬あるいは宗教的補助物として役立っていたものの、やがて日常的に使われるようになった。裕福な者たちは自宅にコーヒールームを設け、コーヒーハウスがそれほど特権的でない者たちにコーヒーを提供するために現れた。皆が皆、これを快く思っていたわけではない。コーヒーはまた、物議を醸す物との風評も得ていた。1511年、メッカの若い知事は、自分に関する風刺詩がコーヒーハウスから生み出されているのに気づいた。コーヒーはワインと同じくコーランにより禁じられるべきという理屈をつけて、彼はメッカのコーヒーハウスを閉鎖させた。だが、その禁止令は長くは続かなかった。大のコーヒー飲みであったカイロのスルタンは、それを聞くと、命令を覆した。イスラム圏の他の支配者や宗教的指導者もまた、16世紀の間、コーヒーを非難した。例えばトルコでは、コンスタンチノーブルの宰相は、コーヒーは飲んだ人を興奮させ政府に楯突き陰謀を企てさせる、という理由でコーヒーを禁止した。

c コーヒーは、17世紀初頭、イタリア人貿易商により初めてヨーロッパに持ち込まれた。最初、コーヒーを飲む習慣は、それ以前に中東においてそうであったのと全く同じように非難された。カトリックの指導者の中には、コーヒーを悪魔の飲物呼ばわりしては、イスラム教徒の飲物などローマ教皇が禁止すべきだと感じていた者もいた。そういう人たちが驚いたことに、ローマ教皇はコーヒーをおいしいと思い、「真にキリスト教的な飲物」としてコーヒーを祝福したのだ。

e コーヒーは、ヴェニス人の貿易商により初めてヨーロッパに持ち込まれた。ヨーロッパ最初のコーヒーハウスは、17世紀中葉、港町のヴェネチアとロンドンで開店した。数年の内に、コーヒーハウスはヨーロッパ大陸中の諸都市で開店していった。だが、イギリスほど

コーヒーが急速かつ劇的な影響を与えた所は他にない。イギリス最初のコーヒーハウスは、1650年にオックスフォード大学で開店した。その世紀の終わり頃には、ロンドンには2000軒以上のコーヒーハウスがあり、他のいかなる商売よりも多くの敷地を占め地代を払っていた。だが、ここでもまた、皆が皆、その状況を快く思っていたわけではない。

a 1674年、ロンドンでは「コーヒー禁止を求める女性の請願書」が出版された。男性の間における最近のコーヒー人気は、正常な家族関係の妨げとなっている、というのがその主張であった。翌年、チャールズ二世国王は、コーヒーハウスは王国の平和を乱すような人々によって足繁く通われている、と主張してコーヒーハウスを閉鎖しようとした。だが、請願書を出した女性たちと同様、国王もイギリスにおけるコーヒーの普及を止めることはできなかった。

d イギリスにおけるコーヒーハウスは、ヨーロッパの他の地域と同様、知的交流の中心となった。コーヒーの物理的な刺激作用とコーヒーハウスの雰囲気、会話を盛り上げ、意見交換の広場を求める人々を惹きつけたのだ。イギリスでは、そういったコーヒーハウスは「ベニー大学」として知られていた。1ペニー払えば、コーヒー1杯付きで、あらゆる職業の人々の並々ならぬ会話に耳を傾ける事ができたからである。銀行、株取引、保険会社といった革新的な仕事は、コーヒーハウスで始まったものだ。タトラーやスペクティターといった新聞もコーヒーハウスで創刊された。ロンドンのコーヒーハウスでは、サミュエル・ジョンソンが時の詩人や学者それに政治家と話しているのに耳を傾ける事ができたし、パリのカフェ・ドゥ・プロコップでは、ヴォルテールやルソーそれにデイドロの会話を耳にすることができたのだ。

多くの人が、コーヒーハウスと、フランスやアメリカおよびその他の国々における革命の企てとの関係について述べている。だが、コーヒーの普及が最も深刻な影響を受けたのは、生産する側であった。ヨーロッパの植民地勢力が、カリブ海、南アメリカ、アフリカ、東インド諸島といった植民地領土におけるコーヒーの生産量を増大させるにつれ、ますます奴隷労働力に依存するようになった。フランス人に対するハイチの奴隷の反乱は、直接的には、現地でのコーヒーおよび砂糖のプランテーションにおける奴隷に対する過酷な処遇に端を発したものであった。このように、パリにおけるヴォルテールやボストンにおけるサミュエル・アダムスの啓蒙的な会話の原動力となったコーヒーは、最も非人道的な形態の強制労働によって生産されていたのである。

イギリスでは、最終的には紅茶が最も人気のある飲物としてコーヒーに取って代った。だが、コーヒーは、アメリカ独立戦争の契機となった不平の1つである紅茶に課せられたイギリスの税金に対する抵抗として、北米植民地の国家的飲料として宣言された。コーヒーはたちまち、アメリカ人の生活に不可欠の一部となった。イギリスが紅茶の方を好んでいるにもかかわらず、コーヒーは今日では、唯一石油に次いで国際的に取引されている産物である。毎年4000億杯ものコーヒーが飲まれ、コーヒーは世界で最も人気のある飲物となっている。

<不要な一文>

⑥あるアジアの宗教では茶がそれとほぼ同じ目的を果たしていた。

<不要な選択肢>

b 紅茶を飲むことは今やイギリス人の日常生活としっかり結びついているが、コーヒーはイギリスに最初で最大の衝撃を与えた。非常に短い期間で大流行になった。

【2】

解答

「全訳」参照。

全訳

我々は実際に、無知は賞賛の母であるということがしばしば言われるのを耳にする。これ以上に誤った言葉はこれまでに一度として話されたことはなく、またこれ以上に有害な言葉もほとんど一度として話されたためしはない。と言うのも、それは、この賞賛という精神の最も健全な働きが大部分はだまされて勘違いをしていることに基づいているということを、そしてもっと分別があれば、賞賛なんてしなくなってしまうであろうということを意味しているように思われるからである。ところが実際には、無知によって、より豊かな洞察力があればありふれたもので、そしてそれゆえにそのような我々からの賞賛などまったく要求してはいないものだとわかるはずのものを賞賛することが1回あれば、百回、否、それどころか千回、無知によって、我々は真に賞賛すべきであるものを賞賛し損なうのである。

注

- ℓ. 1 ◇ it = that …  
 ◇ not seldom = often cf. not often = seldom  
 ◇ ignorance is the mother of admiration < necessity is the mother of invention  
 ○ admiration 「賞賛」 < admire = respect  
 cf. *admirable* = that can be admired
- ℓ. 2 ◇ hardly a more mischievous one (was spoken)  
 ○ hardly : 不定冠詞 a を修飾。語修飾で文準否定。  
 ○ mischievous = having harmful effects  
 ○ a more mischievous one = a more mischievous word  
 ◇ implying, as it does : 分詞構文の強調  
 ○ imply = suggest indirectly; hint
- ℓ. 3 ◇ (the) exercise of = the use of (something)  
 ◇ rests (, for the most part,) on ~  
 ◇ deceit = the act or practice of deceiving or being deceived  
 ◇ delusion = a false belief  
 ◇ that … : imply の目的語
- ℓ. 4 ◇ would : 仮定法。with better knowledge が条件。  
 ◇ in truth : ℓ. 1 の a falser word に対応。  
 cf. true ⇔ false  
 good ⇔ bad  
 right ⇔ wrong  
 ◇ for once that… 「…1回につき」  
 ○ for は‘割合’を表す。  
 cf. *For every mistake you make, I will deduct 5 points.*  
 (誤り1個につき、5点減点する。)

- that : 関係副詞。
- ℓ. 5 ◇ that which = what
  - that : 代名詞。ℓ. 7 も同様。
  - ◇ insight = the capacity to gain an accurate and deep understanding of someone or something 「眼識 ; 分別」
  - ◇ should : 仮定法。with fuller insight が条件。
  - ◇ perceive A (to be) B = view A as B
    - A = that which
    - B = a common thing, and one therefore demanding …
  - ◇ one = a thing
- ℓ. 6 ◇ tribute = something given to show *one's* respect or admiration
  - ◇ nay = no; or rather; and more than that

### 【3】

#### 解答

- (1) 女性買ったばかりの服のことであれこれ話し合いを始める時、筆者には、彼女たちが、最も女性らしく見えるということ。
- (2) 男性
- (3) 「全訳」の下線部参照。
- (4) 服から美や魅力が生じ、そこからうっとりするような生活が始まるのだと信じること。

#### 解説

- (1) ○ They = Women
  - then = when they go into a conference over new clothes
  - oneself ① 「自分だけ、自ら」《強調用法》**文強勢アリ**
  - ② 「自分自身を」《再帰用法》**文強勢ナシ**
  - ③ 「いつもの〔本来の〕自分〔姿〕」**盲点**
  - cf. ① To do right *oneself* is the great thing.  
(自ら正しく振舞うことが大切だ。)
  - ② kill *oneself* (自殺する)  
dress *oneself* (身支度する)  
teach *oneself* (独学する)
  - ③ You are not *yourself* tonight.  
(今夜の君はいつもの君らしくない。)  
You'd better be *yourself* when you talk with your boss.  
(上司と話す時は気取らない方がよい。)
- (2) They seem to me then most themselves and the furthest removed from my sex. の  
1文より、they と my sex が対極にあることがわかる。  
They = Women であるから、my sex (私の性) は「男性」となる。
- (3) ○ policy = a course of action; a plan of action

「(物事を都合よく、効率よく運ぶための)方針, 建て前」

○この文脈では、「目的」位の日本語がぴったりする。

○ imperfect = not perfect or complete; having a fault or faults

○ creature [kri:tʃə] = a living being

○ make the best of = get what limited advantage one can from

(4) ○ this = the belief that out of these clothes, beauty and witchery can emerge, that somewhere here is the beginning of an enchanted life

**全訳**

服に無関心だという女性は、食べ物は気にしないという男性と同様に、信用してはならない。その発言はどこかが間違っているのである。私はといえば、買ったばかりの服のことであれこれ話し合い始める女性たちを見るのが楽しいのだ。そういう時の女性が私には最も女性らしく、また、男性とは正反対のもののように思えるのだ。女性は、そういう時に、完全に自分たちの世界にいるのである。このような服についてあれこれ話し合っている時の女性たちの態度に注目せよ！ 一例をあげれば、女性の自分自身に関して100%見通すことができる現実主義に、である。我々男性は、自分自身を、常に善意という、もやを通して見てしまっている。我々は、自分が、他人が言うほど、太っていたり、やせこけているとは思っていないのだ。しかし女性はそのような幻想とは無縁である。こういう場合に、女性同士がお互いを、一瞬ではあるがまじまじと見つめる視線に注目せよ！ スーザンの左肩は右肩より上がっているわ、ケイトは腰が張り出しているわ、フィリスの脚はとても長いわ、という具合である。この話し合いの目的は、私たちは皆不完全な人間なのだから、いかにして自分を最もよく見せるかということを話し合うことである。しかし、服についての話し合いが初めから終わりまでまったくの厳然たる現実主義ばかりというのではない。彼女たちが皆共有し、異議を申し立てようとは決して夢にも思わない1つの重大な幻想がある。それは、このような服から、美や魅力が生じ、また、そこから、魅惑の生活が始まるのだという信念である。そして、少なくとも、私個人としては、これはまったく楽しいことだと考えるのである。

**注**

ℓ. 1 ◇ be indifferent to [toward] ~ 「～に無関心な」

○ indifferent = having no interest or sympathy

◇ clothes = (never singular and never used with numerals) coverings for the body

◇ like = in the same or a similar way as; in the manner of

◇ mind = care about; worry about; be concerned

ℓ. 2 ◇ distrust = have little trust in; be suspicious of; be doubtful about

◇ for *one's* part = for *oneself* 「他の人はどうか知らないが；自分としては」

(used for emphasizing who *one* is referring to in a statement about something)

◇ delight in = take great pleasure in

ℓ. 3 ◇ go into a conference over ~ 「～に関して話し合いを始める」

○ go into = begin usually involuntarily

◇ conference = exchange of views and opinions; talking over affairs

< confer [kən'fɜ:] = consult (with) ; discuss (with) ; talk a matter over (with)

- ◇ over = on the subject of; concerning; in regard to
- ◇ They seem (to me) (then) (S) (V) (C)  $\left\{ \begin{array}{l} \text{most themselves} \\ \text{and} \\ \text{the furthest removed from my sex.} \end{array} \right.$
- ℓ. 4 ◇ the furthest removed from ~ 「～から最も離れたもの」 → 「～とは正反対なもの」  
《名詞相当語句》
- removed = distant/separated; not connected
- ◇ completely = wholly; thoroughly
- ℓ. 5 ◇ note = ① pay attention to; notice; observe ② record in writing
- ◇ attitude = a manner showing *one's* feelings or thoughts
- ℓ. 6 ◇ absolutely = completely
- ◇ clear-sighted = seeing, thinking or understanding clearly
- ◇ realism = the act or practice of facing facts as they are, and not being influenced by prejudice or convention; practical methods
- ℓ. 7 ◇ through = from one side of something to the other side of it
- ◇ a haze of good will 「善意というもや」
- haze = a very thin mist making the atmosphere less transparent
- good will = goodwill; friendly or helpful feeling or attitude
- ◇ We never believe  
(that) we are  $\left\{ \begin{array}{l} \text{as fat} \\ \text{or} \\ \text{as thin and bony} \end{array} \right\}$  as other people say we are.
- ◇ thin = having little flesh or fat on the body
- ◇ bony = so thin that the bones can be seen  
*cf. bonny* = physically attractive
- ℓ. 8 ◇ free of = not constrained or affected by
- ◇ illusion = a false idea; a belief for which there is no foundation
- ◇ the direct level glances 「一瞬ではあるがまじまじと見つめる視線」
- the direct  $\left\{ \begin{array}{l} \text{level} \\ \text{glances} \end{array} \right.$
- 
- direct = going straight to a place and not stopping or changing direction on the way there
- level = having exactly the same height every where; flat; even
- glance = a brief or hurried look
- ℓ. 10 ◇ hip = the part of the body that sticks out on each side below the waist  
(日本語の「ヒップ」「尻」とは異なる点に注意。日本語の「ヒップ」「尻」は buttocks である。)
- ℓ. 11 ◇ yet = but at the same time



- ℓ. 12 ◇ not simply ~ 「単に～ではない」  
*cf. simply not* ~ 「どうしても～ではない」
- ◇ so much grim realism  
 ○ so much 「それだけの→まったくの」  
*cf. It is only so much* rubbish.  
 (それだけのがらくたばかりだ→まったくのがらくたばかりだ。)
- grim = stern; severe; forbidding  
 ◇ grand = of chief importance; great  
 ◇ that : 目的格の関係代名詞。先行詞は one grand illusion。
- ℓ. 13 ◇ share = have in common  
 ◇ challenge = raise doubt as to whether something is true or genuine 頻出  
*cf. The idea has not been challenged* until recently.  
 (その考えは最近まで疑いを持たれてはいなかった。)
- ◇ It is the belief  
 || (同格)
- that [out of these clothes,]  
 beauty and witchery can emerge,

.

that somewhere here is the beginning of an enchanted life.
- It = one grand illusion  
 ◇ that : 2つとも同格の名詞節を導く接続詞  
 ◇ out of = from
- ℓ. 14 ◇ witchery = ① witchcraft ② power exercised by beauty or eloquence or the like  
 ◇ emerge = come up or out into view, especially when formerly concealed  
 ◇ enchanted = filled with great pleasure  
*cf. her enchanted face* (彼女の喜びいっぱい顔)  
 < enchant = put someone with great delight; charm
- ℓ. 15 ◇ for one = at least for me, whatever the case may be with others  
*cf. I (.) for one (.) don't believe him.*  
 (少なくとも私は彼の言うことは信用しない。)
- ◇ altogether = completely; wholly  
 ◇ delightful = very pleasing; giving enjoyment or pleasure 頻出  
*cf. It was delightful* to watch people eat jellied eels.  
 (人々が、ウナギのゼリー寄せを食べるのを見るのは、とても愉快なことだった。)  
 Properly tamed and trained, parrots make *delightful* pets.  
 (うまくならして訓練すれば、オウムは面白いペットになる。)

【4】

解答

「全訳」の下線部参照。

全訳

現代の普通の英国人にとって、キャプテン・クックは単に名前が知られている存在に過ぎない。しかし彼は少なくとも名前だけはよく知られた人物であり、クリストファー・コロンブスと一番新しい新聞紙上の英雄を除いてしまえば、その人について自信を持って同程度に語れるほどの探検家は他にはほとんど一人も見当たらない。

注

- ℓ. 1 ◇ Captain Cook (James Cook) 「キャプテン・クック」英国の航海者・探検家 (1728~1779)。  
◇ little more than < no more than = only
- ℓ. 2 ◇ that = a name  
○ name = ①名前だけの存在 ②有名人  
◇ Christopher Columbus 「クリストファー・コロンブス」イタリアの航海者 (1451頃 - 1506)。
- ℓ. 3 ◇ explorer  
○ explore : 原義は search out; examine である。  
◇ whom : 先行詞は any other explorer。  
◇ of = about; concerning

[5]

解答

<b>Fall, 98</b>
<b>28</b> <b>September 27, 1998</b>

<b>Mr. Smith</b>
<b>E3L</b>

--



<b>L1</b>	<b>L2</b>	<b>L3</b>	<b>L4</b>	<b>L5</b>
<b>20</b> <hr/> <b>20</b>				

--	--	--	--	--

1. (Attendance )
2. (Effort )
3. (Ability )
4. (Progress )



Script

CD1 7 ~ 9

Listen carefully to the following instructions and follow them exactly. Imagine that your teacher is giving you instructions for a five-day course in listening skills for English. These instructions are given to assist you in filling in a record sheet for the course. Since this is a

simulation of a test, do not fill in actual information — just follow the instructions precisely.

5 In the box in the upper right-hand corner, write clearly the teacher's name, which is Mr. Smith, in the top part, and the course code, which is E3L, in the bottom. Immediately opposite that box, in the upper left-hand corner of the page, please write the term, which is Fall, 98. This should be written in the top part of the box. Put a comma between the word "fall" and the number indicating the year. You should also capitalize the word "fall."

10 In the lower half of the box, write the date in the following order: month, day, and year. Today's date is September 27, 1998.

Excuse me, I've made a mistake. The date should be September 28. Don't erase the number 27, just draw a line through it and write the number 28 above it.

Beneath the heavy dotted line you will see a grid consisting of two rows of five spaces  
15 each. This is a chart for recording your test scores for the five lessons. In the top row, going from left to right, write L1, L2, L3, L4, and L5 in the boxes.

In the box beneath where you wrote L1, write today's score 20 over 20. Write the numbers one above the other, with a diagonal slash separating them. Congratulations! You got a perfect score on your first test!

20 Below the heavy solid line you will see some numbered lines. These are for the teacher's evaluations. In the blanks between the parentheses write the following words, following the example in number one: two is "effort," three is "ability," and four is "progress." Be sure to capitalize all three words.

25 Finally, at the bottom of the page you will find a box in each corner. Divide the box on the left in half with a horizontal line and divide the one on the right in half with a vertical line.

Thank you for your cooperation. {370 words}

全訳

これから言う指示をよく聞いて、それに正確に従って下さい。皆さんの先生が5日間の英語のリスニング講座の指示をしていると思って下さい。この指示は、その講座の成績表を記入するためのものです。これはテストのシミュレーションなので、実際の情報は記入しないで下さい。指示に正確に従うだけで結構です。

右上の角にある四角の中の上の部分に、先生の名前、すなわち Mr. Smith, 下の部分に講座記号、すなわち E3L とはっきり書いて下さい。そのちょうど反対側の、左上の角にある四角の中にターム、すなわち Fall, 98 と書いて下さい。これは四角の上の部分に書いて下さい。“fall” という単語と年度を表す数字の間にはコンマを入れて下さい。また、“fall” という単語は大文字で始めて下さい。

その四角の下半分には、日付を次の順番で書いて下さい：月，日，年の順です。今日の日付は、1998年9月27日です。

すみません。間違えました。日付は9月28日ですね。27という数字は消さないで、線を引いて消し、その上に28という数字を書いて下さい。

太い点線の下に、5マスの列が2列ある表があります。これは、5回の授業でのテストの点数を記録するための表です。上の列の左から右に、L1, L2, L3, L4, L5 とマスの中に書いて下さい。

L1 と書いた下のマスに、今日の点数、20点中20点と書いて下さい。数字は上下に並べて、その間を斜線で区切って下さい。よくできました！最初のテストは満点です！

太線の下に、番号の付いた線が何本かあります。これは、先生の評価を記入するためのものです。カッコの中の空欄に、1番の例に従ってそれぞれ次の単語を書いて下さい。2番は“effort”, 3番は“ability”, そして4番は“progress”です。3つの単語はすべて大文字で始めて下さい。

最後に、ページ下の部分の両角に四角があります。左側の四角は横線で、右側の四角は縦線で区切って2つに分けて下さい。

ご協力ありがとうございました。

注

- ℓ. 3 ◇ fill in ~ 「～に記入する」  
◇ record sheet 「成績表；記録用紙」
- ℓ. 5 ◇ upper right-hand corner 「右上の角」 cf. lower left-hand corner (左下の角)
- ℓ. 6 ◇ top part 「上の部分」 cf. bottom part (下の部分)  
◇ course code 「コース〔講座〕記号」  
◇ immediately opposite ~ 「～のちょうど反対側に」
- ℓ. 9 ◇ capitalize ~ 「～を大文字で始める」
- ℓ. 10 ◇ in the following order 「次の順序で」
- ℓ. 12 ◇ erase ~ 「～を消す」
- ℓ. 13 ◇ draw a line through ~ 「～の上に線を引く；～に線を引いて消す」
- ℓ. 14 ◇ beneath ~ 「～の真下に」  
◇ heavy dotted line 「太い点線」 cf. heavy solid line (太い実線)

- ◇ grid 「格子状の表；マス目」
- ◇ consist of ～ 「～から成る」
- ◇ two rows of five spaces each 「それぞれ5マスある2つの列」
- ℓ. 17 ◇ ～ over … 「…分の～」(テストなどで「…点満点中～点」, 分数で「…分の～」と言う場合にも用いられる)
- ℓ. 18 ◇ one above the other 「1つをもう1つの上に→上下に並べて」  
cf. one *next to* the other (左右に並べて；隣同士に)  
one *after* the other (交互に；順々に)
- ◇ diagonal 「斜めの；対角線の」
- ℓ. 21 ◇ evaluation 「評価；評点」
- ◇ parenthesis (parentheses *pl.*) 「カッコ」
- ℓ. 23 ◇ be sure to … 「必ず…する」
- ℓ. 24 ◇ divide ～ in half 「～を2つに分割する」
- ◇ on the left 「左側の」 cf. on the *right* (右側の)
- ℓ. 25 ◇ horizontal 「水平の；横向きの」 cf. *vertical* (垂直の；縦の)
- ℓ. 26 ◇ Thank you for your cooperation. 「ご協力ありがとうございます。」

## 【6】

### 解答

- (1) **b**    (2) **d**    (3) **c**    (4) **e**    (5) **c**

### 解説

- (1) ℓ. 7～8の記述から、**b**であることがわかる。
- (2) ℓ. 30及びℓ. 39～40の記述から、**c**, **d**のいずれかである。しかし、そこがボスの部屋であるという根拠は、本文中には見当たらない。したがって、**d**が正解。
- (3) ℓ. 43～44に she heard the voice of Mr. Lorrimore とあり、さらにℓ. 45で、'Oh dear, my poor Miss Poynter と Lorrimore が言っていることから、2人はお互いのことを知っていることがわかる。正解は **c**。
- (4) 最終段落がヒント。
- (5) ℓ. 18～20から、**c**であることは明らか。

### 全訳

カーベットの厚みが、彼女が倒れた時の衝撃を和らげた。ロバートは彼女が倒れたことにあまりにも驚いたので、彼女を受けとめるほど素早く動くことができなかった。いずれにせよ、それはカギの掛かった2階のトイレから脱出するほどの元気を見せた少女から予期される種類の反応ではなかったのだ。彼は、彼女が倒れたふりをしているとは疑いもしなかったが、ボスには彼以上の想像力があつた。

「目を見てみる。」彼は手厳しく、とげとげしい口調で命令した。

キャロルは、まさにそのような行動を予期していたので、しめしめと思った。ロバートがまぶたを持ち上げるまでは、意識を失っているように見せるために、白目をむいておいた。その定まっていない視線は、ロバートが発見するのを予期していたものであつた。

「ボス、気を失っています。」と彼は報告した。

ボスは、悪態をつきつつ独りぶつき言っていたので、何を言っているのかキャロルには理解できなかった。本当に気絶しているのかどうかを確かめようとして、彼らが他のテストをしないことを彼女はうれしく思った。あまりの苦痛に切り抜けることができなかつたかもしれないから。

彼女が気絶の芸当を演じてから何年も経っていた。実際、学生時代に彼女が最も楽しんだことの1つは、時々先輩たちが上演する劇で演じることであった。キャロルは、自分にはいくつかの役を演じる、生まれながらの才能があることに気づいていた。——そして殺人事件の話で犠牲者を演じた時が、その中で最もよかった。

その劇では、頭部を「撃たれた」後、固いステージの上に死んだように倒れなければならなかった。彼女は、ある日残酷なギャングの拷問から自分を救うために、その芸当を再び演じることになろうとは夢にも思わなかった。しかし、ボスの態度が冷淡な説得から怒りに満ちた脅迫へと姿を変えた時、自分の身に降りかかろうとしていることが、彼女にははっきりとわかった。

もちろん目を開ける勇気はないので、ボスが今何を企んでいるのかわからなかったが、彼が静かにミックかロバートに話をしている、という印象を受けた。直後に、彼女は身体が持ち上げられるのを感じた。完全に体から力を抜くには、頭は働かせなくてはならなかった。また彼女には、自分がうまくやっていることを祈ることしかできなかった。彼女は驚くほどやさしいやり方で持ち上げられたので、こんなに容易く自分を持ち上げている人物はミックであろうと推測し、それは正しかった。ミックの腕の中であお向け寝て、頭を彼の肩にぐったりともたせかけながら、彼らは私をどこに連れて行くつもりなのだろう、と彼女は思った。おそらく、もう一度閉じ込めようとしているのだろう。閉じ込められる以上に悪いことでなければ…

2階に運ばれていることがわかったが、まったく驚くべきことではなかった。そう、少なくとも今回は、狭苦しいトイレではなくて、快適な寝室を選ぶかもしれない。

「ミック、その女には無理をさせるなよ。」次にやるべきことがもう取り決めてあるかのように、低い声で話すボスの声が聞こえた。「できるだけ早く意識を回復してもらいたいんだ。早く何か聞き出せれば、そのぶん…」

ボスは最後まで言わなかったが、その時キャロルが考えることができたのは、彼女が彼らを騙し切っているということだけである。ボスは、本当に彼女が気絶していると思っていた！ 我ながら見事な演技である、と彼女は思った。

これまでに、暗闇の中で自分の周りの道を察する練習をたっぷりとやっておいたので、居間を出てから彼らの進んだ経路は十分に見当がついていた。ドアのカギが開けられる音を聞き、それから柔らかい物の上に投げられた。思い切って目を開けられればと思ったが、時期尚早だと判断した。

ミックが——そしておそらくロバートも——部屋を離れ、再びカギがかけられる音が聞こえた。そしてそれから、驚くべきことに、ロリモア氏の声が聞こえたのである。

「おやおや、かわいそうなポインターさん。」心から同情しているかのように彼は言った。「一体全体、あなたの身に何が起きているのですか。」

彼女には、手を伸ばせば触れることができるくらい彼が近くにいることがわかった。彼女の本能は、自分は大丈夫だと彼に確信させることだった。しかし、彼女はミックとロバートがドアの外で聞き耳を立てているとすれば、自分の声を聞かれるだろうと気づき、躊躇した。

注

- ℓ. 1 ◇ thickness = the quality or state of being thick
- ℓ. 2 ◇ collapse = the act of suddenly falling down  
◇ in any case ① 前述内容を受けて「いずれにせよ；とにかく；少なくとも」  
= *anyway; at any rate*  
② 単独で用いて「いかなる場合でも；必ず」
- ◇ it wasn't the sort of reaction to be expected from a girl  
○ it = her collapse  
○ to be …：形容詞用法の不定詞。the sort of reaction を修飾。
- ℓ. 3 ◇ who …：先行詞は a girl。  
◇ break out of = escape from
- ℓ. 4 ◇ first floor ① (British) the floor of a building above the ground 《2階》  
② (American) the ground floor of a building 《1階》  
※ この作品はイギリス英語なので、①の意味である。
- ◇ lavatory = toilet  
◇ suspect = think that something is probably true or likely, especially something is bad  
◇ fake = pretend to have a particular illness, feeling, etc
- ℓ. 6 ◇ harshly = cruelly, severely and unkindly
- ℓ. 7 ◇ thankful = grateful and glad about something that has happened, especially because without it the situation would be much worse  
◇ anticipate = expect that something will happen  
◇ that very move  
○ very [形容詞] = used to emphasize a noun  
○ move = action  
◇ force back = cause to move back by force or influence
- ℓ. 8 ◇ roll = shift the gaze usually quickly and continually  
○ 本文では upwards と一緒に使われているので、「白目をむく」の意。
- ℓ. 9 ◇ glazed = showing no feeling or emotion = dull
- ℓ. 11 ◇ curse = swear  
◇ mutter = speak in a low, grumbling way that is hard to understand  
◇ make out = (used in negative sentences and questions) understand
- ℓ. 12 ◇ carry out = do and complete
- ℓ. 13 ◇ They might have been too painful to survive  
○ They = any other tests  
○ survive = ① remain alive or in existence: live on ② continue to function or prosper
- ℓ. 14 ◇ one of the things (that) she'd most enjoyed : that は関係代名詞。



- ℓ. 15 ◇ the plays that occasionally were presented by the older pupils  
 ○ that = 先行詞は the plays  
 ○ occasionally = once in a while; from time to time; now and then  
 ○ present = give a performance in a theatre, cinema, etc.
- ℓ. 16 ◇ a natural talent for some roles = a natural ability to do some roles well  
 ◇ the best of them  
 ○ them = some roles
- ℓ. 18 ◇ lifelessly = deadly  
 ◇ onto = to a position on
- ℓ. 19 ◇ the feat = the fainting trick  
 ○ feat = the action or piece of work that needs skill, strength or courage  
 ◇ to save herself from being tortured by a ruthless gang  
 ○ 副詞用法の不定詞。  
 ○ save A from *…ing* 「(危険などから) A が…するのを救う ; 助ける」  
 ○ torture = cause someone to suffer pain in a cruel way  
 ○ ruthless = cruel; evil; without mercy; without pity; without compassion
- ℓ. 20 ◇ in store = awaiting
- ℓ. 21 ◇ switch = change
- ℓ. 22 ◇ daren't = dare not  
*cf. dare* = to be brave enough to do something dangerous or that you are afraid to do  
 ◇ up to = occupied with, especially devising or scheming
- ℓ. 23 ◇ she got the impression (that) he was talking quietly to Mick or Robert. : この  
 that は同格の名詞節を導く接続詞。
- ℓ. 24 ◇ it required a mental effort to remain absolutely limp  
 ○ it = to remain absolutely limp  
 ○ remain = continue to be; to be in the same state or situation  
 ○ limp = lacking in strength or firmness or resilience
- ℓ. 25 ◇ pray = hope very much  
 ◇ She'd been picked up in a surprisingly gentle manner  
 ○ pick up = lift up  
 ○ gentle = pleasantly mild
- ℓ. 26 ◇ She lay back in his arms, her head lolling against his shoulder  
 ○ lie back = relax by stretching out flat on the back  
 ○ her head lolling against his shoulder : 分詞構文。  
 ○ loll = relax in a reclining or leaning position
- ℓ. 28 ◇ presumably = by reasonable assumption  
 ◇ just so long as = only if  
 ○ 仮定法では使えない。よってここでは「描出話法」。  
 ◇ it は '状況' を表している。

- ℓ. 31 ◇ instead of a tiny lavatory  
 ○ instead of = in place of  
 ○ tiny = very small
- ℓ. 32 ◇ take it easy = relax 「リラックスして；肩の力を抜いて；落ち着いて」
- ℓ. 33 ◇ negotiate = deal with (some matter or affair that requires ability for its successful handling)  
 ◇ come round = become conscious again  
 ◇ The sooner we hear something …  
 ○ the = to what extent  
*Ex. The older he grows, the more he drinks. (the = to that extent)*
- ℓ. 35 ◇ all (that) Carol could think about at that moment … : that は関係代名詞。
- ℓ. 36 ◇ fooled = trick somebody into believing  
 ◇ The boss really did think  
 ○ did [do] : used when no other auxiliary verb is present, to emphasize what you are saying
- ℓ. 37 ◇ inspired = having excellent qualities or ability, produced with the help of inspiration
- ℓ. 38 ◇ sense *v.* = become aware of something even though you cannot see it, hear it, etc.  
 ◇ about = somewhere near; not far off  
*cf. She is somewhere about. (彼女はどこか近くにいる。)*
- ℓ. 39 ◇ good = reliable; sure
- ℓ. 40 ◇ dump = release or throw down in a large mass
- ℓ. 42 ◇ There was the sound of { Mick, and presumably, Robert as well departing  
and  
 the key being turned in the lock again.
- ℓ. 43 ◇ amazingly = very surprisingly
- ℓ. 45 ◇ dear = a beloved person; used as terms of endearment  
 ◇ poor = deserving pity and sympathy
- ℓ. 46 ◇ on earth: used with question words to convey surprise 「一体全体」
- ℓ. 47 ◇ reach out = move forward or upward in order to touch; also in a metaphorical sense
- ℓ. 48 ◇ assure = make someone certain about something  
 ◇ hesitate = pause before you do or say something, often because you are uncertain or nervous about it

## 添削課題

### 解答例

To make chicken soup you need one 2 kg chicken, 12 cups of water, 3 slices of fresh ginger and 1 tablespoon of salt. Put the ingredients in a large pot and bring them to a boil. Then turn down the heat and let the soup simmer for 3 hours. Remove most of the fat that rises to the top. Serve the chicken whole in a large bowl with the soup. [71 words]

### 解説

- There are many terms for cooking and food preparation, but you can usually give directions for basic dishes using familiar verbs such as *cut, slice, chop, mince, stir, mix, fry, boil, grill, and bake*. *Put in* and *take out* are also useful. Of course, if you really like cooking you will enjoy learning new words to describe various cooking techniques and utensils.
- This type of writing is purely practical. Directions should be given as clearly and simply as possible, whether you are giving directions to the post office or explaining a technique such as cooking. Your directions are of no use if they don't actually lead to the post office or result in a tasty dish.
- Incidentally, there is a great demand for people skilled at writing clear and accurate instructions in English, as well as translating English instructions into Japanese. All those mobile phones, digital cameras, and computer devices need instruction manuals that can be understood by people all over the world.
- One confusing point is that due to interest in cooking styles from around the world, Japanese now includes many borrowed words from English, French, and other languages. However, these words are sometimes changed into forms that would not be recognized in the languages they originally came from. Though most Japanese speakers probably understand what *sandwich* means, most English speakers would not recognize *sando* or *sand* as something to eat.
- Be careful to distinguish participial adjective forms. They don't have the same meanings.
  - *Boiled water* is water that has been boiled. You use it to make tea and instant noodles.
  - *Boiling water* is water that is still being heated on the stove. You use it to boil eggs, potatoes, and other kinds of food.
  - *Baked goods* are goods that have been baked, such as bread, cakes and cookies.
  - *Baking goods* are goods that are used for baking, such as flour, sugar, yeast, and mixes for cakes, pie crust, and pancakes.

E3JS/E3J  
選抜東大英語  
東大英語



会員番号	
------	--

氏名	
----	--

不許複製